

仙波 弘行 古澤 龍也

研究パートナー 糸岡 夕里 日野 克博

1 教科領域研究テーマ

豊かなスポーツライフの実現に向けて、主体的に運動に取り組む生徒の育成

2 研究テーマ設定の理由

保健体育科では、生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現していく資質や能力を育成することが求められている。つまり、保健体育科における「ウェルビーイング」を一言で表すとすれば、心も体も健康的な生活を送ることだと考える。そうあるために、いつでも、どこでも、誰とでも、自分の必要感に応じて運動を実践できる生徒を育てたい。

生涯にわたって豊かなスポーツライフを実現するためには、生徒に運動との前向きな出会いをさせ、運動やスポーツの楽しさや喜びを実感させることが重要となる。保健体育学習では、技能の定着に向けて粘り強く努力する姿勢、仲間との豊かな関わり合いの中で他者と協働して活動できる力なども必要となる。日々の授業で培われたこれらの力が日常生活でも生かされれば、自分たちの力でよりよい社会、未来を拓くことができる人材が育つのではないかと考える。

3 具体的な研究内容・方法

(1) OPP シート等を活用した評価活動の充実

昨年度の研究では、OPP シートを活用することで、生徒の学びがつながり、新しい見方や考え方に気付かせることができたり、教師の指導改善に役立てたりすることができたという成果を得た。一方で、時間内にシートに記入することができない生徒がいたり、単元によっては、OPP シートの活用方法が不十分であったりといった課題も出てきた。そこで今年度は、「主体的に学習に取り組む態度」の中の「自ら学習を調整する力」を更に伸ばすことができるよう、OPP シートを改良することで、生徒一人一人が自己の変容に気付き、学び方を問い直すような学習を展開し、メタ認知能力を高めるようにする。

(2) AAR サイクル（見通し・行動・振り返り）を生かした授業展開の工夫

昨年度は、単元終了時の理想とする姿をイメージさせることで、毎時間の授業に意欲的に取り組もうとする生徒の姿が見られた。一方、技能習得の場面において、自己の姿を客観的にとらえ、的確に自己を評価する力の習得は不十分であった。そこで今年度は、振り返りの場面において、設定した目標に対する自己評価に加え、生徒同士による相互評価を取り入れる。このように、生徒が仲間との関わり合いの中で目標への達成状況を評価し、次の行動や意思決定につなげるという授業を展開することで、生徒がエージェンシーを発揮しながら学習に取り組むことができるようにする。

4 校内授業計画

- 陸上競技 「ハードル走」（1年，11月，仙波 弘行）
- 体育理論 「文化としてのスポーツの意義」（2年，2月，古澤 龍也）